

講義科目 : 法哲学 (53期生)	単位数 : 2
担当 : 竹村 和也	学習形態 : 選択科目

講義の内容・方法および到達目標

本講義のねらいは、まずは法哲学・法思想についての基礎的な知識をえることです。さらにこれらの知識を活用して、様々な法現象について考えることも目的となります。法哲学は抽象的な学問であると敬遠されることもありますが、日常生活における法的問題や社会問題とも密接な関係がありますから、可能な範囲で、これらのテーマについて討論を行う予定です。

到達目標は、法哲学・法思想についての知識を元にして、様々な問題について自分なりに原理的に分析できることです。

授業計画

- 第1回 ガイダンス・ギリシャの法思想
- 第2回 自然法思想と法実証主義・法とは何か
- 第3回 法と道徳(パターンリズム・リーガルモラリズム・サマリア人の法)
- 第4回 法実証主義の展開
- 第5回 ローマ法(大陸法と英米法)・裁判官は何をしているのか①
- 第6回 概念法学とリアリズム・裁判官は何をしているのか②
- 第7回 裁判官は何をしているのか③
- 第8回 近代の自然法論(英仏の法思想)
- 第9回 歴史法学
- 第10回 近代の法実証主義
- 第11回 帰結主義と功利主義
- 第12回 正義とは何か①(リベラリズムの正義論)
- 第13回 正義とは何か②(リバタリアニズムの正義論)
- 第14回 正義とは何か③(コミュニタリアニズムの正義論)
- 第15回 まとめと確認

教材・テキスト・参考文献等

パワーポイントを用い、レジュメを配布します。

参考文献：深田三徳・濱真一郎編著『よくわかる法哲学・法思想』ミネルヴァ書房、第二版、2015年。その他の参考文献については随時授業で指示します。

成績評価方法

平常点・レポート・定期試験で総合的に評価します。これらの割合は、平常点(出席及び特に授業への積極的な参加) 30% レポート 30% 定期試験 40%

その他

法哲学を履修する学生に限らず、大学生として当然のことですが、社会で起こっている様々な問題に関心を持つということ、また新聞に目を通すということが必要です。